

# 夏秋トルコギキョウと低温開花性花き（カンパニユラ）の 組合せによる周年生産

相双農林事務所双葉農業普及所

花き

アグリふくしま革新技術加速化推進双葉地方協議会（広野町、檜葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、福島さくら農業協同組合、全国農業協同組合福島県本部郡山営農事業所、農業総合センター（浜地域研究所、浜地域農業再生研究センター）、相双農林事務所）

## 1 実証の背景・概要

### (1) 背景

#### ア 現状

- 双葉地方では東日本大震災以降、風評被害の少ない花き生産に取り組む生産者が年々増えている。
- 厳冬期でも比較的温暖な双葉地方の気象条件を活かし、花きの周年生産体系を構築することで、双葉地方の農業の復興・再生を図る必要がある。

#### イ 改善の方向

- トルコギキョウの後作にカンパニユラの電照栽培を実施し、施設の高度利用により生産者の所得向上を図るとともに、冬春季品目のバリエーションを拡大する。

### (2) 実証の概要

#### ア 導入機材及び面積

- 導入資材：電照資材一式（赤色LED（鍋清（株）ダウンライト DPDL-R-9W）
- 実証面積：3.3a（電球を畝から150cmの高さに3m間隔で設置）

#### イ 技術の概要

- 定植から頂花出蕾までの期間、**23時から1時まで**電照を実施する。



電照装置

## 2 実証の成果

### (1) 成果

- 電照栽培を実施したことで、**12月に定植したカンパニユラを3月末から出荷できた。**
- 品質についても過去の試験研究で得られたものと同程度確保でき、**市場出荷分の9割を80cm以上で出荷できた。**
- 先端プロの研究成果や実証状況などを他生産者へ情報提供し、トルコギキョウとカンパニユラの組合せ栽培を推進した結果、**実証農家を含めて新たに3戸（檜葉町2戸、浪江町1戸）が組合せ栽培に取り組んだ。**
- 実証ほのカンパニユラの平均単価は63円/本であった。

表 実証ほの切り花品質（カンパニユラ 12月定植（檜葉町））

品種	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	茎径* (mm)	節数 (節)	有効花蕾数 (個/本)
チャンピオンピンク	94.7	122.5	4.7	21.3	22.0
チャンピオンスカイブルー	93.1	110.0	5.2	19.6	19.1
【参考】 12月定植（南相馬）	71.0	68.4	7.7	20.2	23.2

\*：実証ほは止葉節から3節目と4節目の間を測定。  
参考では切花長の中央部の節を測定。

表 実証ほの開花期（カンパニユラ 12月定植（檜葉町））

品種	開花期（月/日）		
	始期	盛期	終期
チャンピオンピンク	3/24	4/1	4/8
チャンピオンスカイブルー	3/16	3/26	4/1

※開花始期、盛期、終期は、それぞれ全体の10%、50%、90%が開花した日

### (2) 課題

- 12月以外で定植した場合の出荷時期や単価推移について確認し、双葉郡内における最善の作型を検討する必要がある。

### (3) 導入による産地への効果

- 夏秋季はトルコギキョウを、冬春季はストック、カンパニユラを出荷することで、花きの周年出荷が可能になる。



実証ほのカンパニユラ

## 3 実証担当農家・産地より

- カンパニユラをはじめて栽培したが、栽培しやすく、品質の良いものを収穫することができた。コロナウイルスの影響により、出荷後半から単価が下がっていったのが残念だった。
- 令和2年度は、より早い時期（10月下旬）に定植する作型で実証中である。

# 経営モデル

相双農林事務所双葉農業普及所  
作物名：トルコギキョウ、カンパニュラ

トルコギキョウ生産者が、7月定植10月出荷のトルコギキョウの後作として、カンパニュラ・メジュームを導入し、計画的な花き周年出荷を想定した経営モデル。（電源のあるハウスで新たに電照栽培に取り組むことが前提）

## 前提条件

項目	内容
想定モデル規模	労働力 2名
	栽培面積 トルコギキョウ10a カンパニュラ10a
栽培方法	作型例 トルコギキョウ：7月定植10月出荷 カンパニュラ：12月定植4月出荷
	栽植様式 トルコギキョウ：株間15cm・条間15cm、4条植、 カンパニュラ：株間15cm・条間15cm、5条植、
	電照条件 カンパニュラ：間隔3m・高さ1.2m 23時～1時の2時間

## 導入コスト

資材名	数量	耐用年数	金額(円)
赤色LED※1	180	7	594,000
ソケット付ケーブル※2	15	7	221,100
電照分岐ケーブル	3	7	19,800
合計			834,900

- ※1 鍋精社 DPDL-R-9W 赤色
- ※2 ソケット数量 13個
- ※3 3.3aハウス3棟分の導入コスト

項目	技術導入前又は慣行 (トルコギキョウのみ10a) ※3月植えの作型で記載	技術導入後 (トルコギキョウ10a、カンパ ニュラ10a)
生産量(千本)	15	トルコギキョウ：12.9 カンパニュラ：12.5
(生産量(千本))	15	トルコギキョウ：12.9 カンパニュラ：12.5
販売額(千円)	2,190	3,008
(単価円/本)	146	トルコギキョウ：146 カンパニュラ：90
経営費(千円)	1,243	1,667
うち 種苗費	450	540 *1
肥料・農薬費	68	110
小農具費	0	0
諸材料費	100	119 *2
光熱動力費	0	52
流通経費	320	541
減価償却費	305	305
雇用労働費	0	0
その他※	0	0
農業所得(千円)	947	1,341

補足説明  
(注意事項等)

\*1：トルコギキョウは購入苗、カンパニュラは自家育苗で栽培（カンパニュラ種子：9万円/10a）

\*2：「導入コスト」を7年割りした金額

○電照は定植2週間後から頂花発蕾まで行う。

※その他：賃借料、共済掛金など